

ひまわり



令和3年6月21日(月)

人を大切にする文化を守る



(株) ジャーマン・インターナショナルの社長、ルース・マリー・ジャーマンさんは、米国ノースカロライナ生まれのハワイ育ち。ボストンの大学を卒業し、日本の（株）リクルートに入社し、以来33年間日本に住んでいます。この間に、日本語能力検定1級、宅地建物取引士の資格を取得し、日本の美德を伝える本も書いています。知る人ぞ知る日本通です。もしかすると、私たちよりも日本のこと理解している外国人かもしれません。

昨年から、日本でも新型コロナウイルス感染症が拡大し、ルースさんは不安の中で生活していたそうです。その中で、あらためて日本の良さを感じたそうです。日本では、どのような状況でも、日本で暮らす外国人を大切にしてくれるというのです。

他国では、何事も自国民が優先で、外国人は二の次なることは当たり前だそうです。例えば、コロナの集団感染が発生したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号（ダ号）」での対応では、外国人は、日本のスタッフが心を尽くしてくれたと感じているそうです。この船はイギリス船籍で、運営会社はアメリカ。その後、ダ号がアメリカに帰った時、アメリカ人以外はとても雑な対応に遭ったそうで、あらためて日本の対応の良さに感動したこと。

ルースさんは、これは日本文化とアメリカ文化の違いだと言います。アメリカでは、いかに自分が自立し、スポットライトを浴びるようなパフォーマンスを見せるということが重要な文化。それに対し日本では、いかに他者と協力・協調するかということを大切にする文化。アメリカの文化は一人舞台のパフォーマー、日本の文化は他者と協調して美しい音を奏でるオーケストラにたとえることでできると言うのです。このような日本文化が、人を大切にする風土を育てているのでしょう。

私たちは、このように感じてくれている外国人がいることを誇りに思い、この国が育ててきた人を大切にする文化を守っていくべきなのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

